

地誌 第33回「アングロアメリカ地誌(4) ～世界のなかのアメリカ合衆国～」

○今回のポイント

国際社会に影響を与えるアメリカ合衆国

(1)[①]

○アメリカ合衆国で生まれて世界に広まったもの

- ⇒衣食住…コココーラ、マクドナルド、映画や音楽、ジーンズ、
- ⇒消費・娯楽…スーパーマーケットやショッピングセンターなどの小売形態
- ⇒交通…自動車にもとづいた[②]社会

○[③]…政治、経済、社会、文化の各方面がアメリカ合衆国のようになる現象。アメリカ合衆国の政治、経済、社会、文化を模倣したり嗜好したりする現象。それぞれの地域で培われてきた伝統的な生活文化が失われ、世界が画一化してしまうことが懸念されている。

(2)経済的影響

○[④]…世界の基軸通貨として貿易などの国際取引で広く使用される。

(3)[⑤]

○アメリカの情報技術関連企業は世界市場において圧倒的なシェア。アメリカの規格が事実上の世界水準。

Cf.例：ワープロソフトとして日本には「一太郎」というソフトがあったが、マイクロソフト社の「ワード」に駆逐されていった。

(4)[⑥]

○東西冷戦の終結⇒ソ連崩壊⇒アメリカが唯一の超大国となる。

(国際機関の運営、地域紛争の解決、サミットの首脳会議などでアメリカが大きな発言力を持つ)

○アメリカ合衆国が国際社会とどのように協調していくか。

- ・環境問題では自国の利益を優先し、排ガス規制などには協調しない。
- ・[⑦]が起こる仕組み

→ アメリカは資本主義社会の超大国→資本主義社会は競争社会→競争に敗れた社会的弱者の出現→敗者に対して自己責任論が展開(お前が就職できなかったのはお前が努力しなかったからだ)→怨恨や不満が募る→宗教原理主義がその受け皿となる→反米☆テロリズム→アメリカがますます抑圧を強める

世界中から集まる頭脳

(1)[⑧]の種類

- ・農業、工業、建設業などにおける単純労働者
- ・最先端の研究開発

(2)カリフォルニア州の[⑨] → 情報技術関連企業の世界的な集積地

- ・研究職や技術職に従事する人々の約3割が移民。インド、中国などアジア系が重要な役割。
- ・アジア系の人々はアメリカ人よりもはるかに高学歴。約5割が大学院修士号あるいはそれ以上の学位を保持している。

地理 第85回「アングロアメリカ地誌④～カナダ地誌～」

○今回のポイント



(1)基礎データ

- ・国土面積…998.5万km²(世界[①]位)。人口約3400万人。人口密度は極めて低い。
- ・気候…大部分が[②](Df)。北極海沿岸には[③]気候(ET)。

(2)民族

- ・[④]問題…カナダは仏領植民地を経て英領となった地域もあるため、ケベック州ではフランス語使用者が多い。そのため、イギリス系住民へ不満が根強く分離独立運動が起こる。→公用語を英語と仏語にして対処。首都のオタワはケベック州とオンタリオ州の間
- ・[⑤]…カナダ北部・アラスカ・グリーンランドに居住するモンゴロイドの先住民民族。
- ・[⑥]…太平洋沿岸にアジア系の移民。半島系の移民が多し。香港の中国返還前後(1997年)には中国系移民も増加。

(3)産業

○農業

- ・南部で[⑦]→世界有数の輸出国(カナダ3位)。
- ・森林資源の[⑧]も世界有数の輸出国(カナダ第2位)。

○鉱業

- ・安定陸塊の[⑨] → [⑩](輸出第5位)
- ・[⑪]のロッキー山脈 → [⑫](輸出9位)・天然ガス(輸出3位)

○工業

- ・五大湖周辺…自動車工業などの[⑬]が多数進出。
- ・太平洋側…[⑭]などの先端技術産業。
- ・ラブラドル高原…カナダは[⑮]が多く水力発電。安価な電力で[⑯]工業